

令和2年度第1回函館市社会福祉審議会全体会議 会議録	
開催日時	令和2年12月21日(月) 18時30分～
開催場所	函館市役所8階大会議室
協議事項	1 委員長の選出について 2 委員長職務代理者の指名について 3 専門分科会および審査部会の委員の指名について 4 福祉拠点の整備について
出席委員	池田委員, 岩山委員, 梅田委員, 大槻委員, 岡崎委員, 小倉委員, 数又委員, 神田委員, 熊谷委員, 小谷委員, 佐藤委員, 佐藤委員, 白幡委員, 相馬委員, 椿田委員, 野澤委員, 船橋委員, 森谷委員, 柳原委員, 若山委員
傍聴, 報道等	なし
事務局	保健福祉部 大泉保健福祉部長 本吉保健福祉部次長 金指地域福祉課長 加藤障がい保健福祉課長 子ども未来部 佐藤子ども未来部長 横田子ども未来部次長 小辻子育て支援課長

会議内容	
1 開会	
地域福祉課長	<p>それでは、ただいまから、 「令和2年度 第1回函館市社会福祉審議会全体会議」を開催する。</p> <p>はじめに、開催にあたり、保健福祉部長からご挨拶を申し上げます。</p>
2 保健福祉部長挨拶	
保健福祉部長	保健福祉部長挨拶
3 委員紹介	
地域福祉課長	<p>皆様に配付の資料1ページ目の表をご覧ください。</p> <p>10月18日付で函館市長から任命させていただいた、 当審議会の委員名簿です。</p> <p>一人ひとりのお名前をお呼びしての紹介は省略させていただく。</p> <p>続いて、資料2ページ目、上段の表をご覧ください。 臨時委員の名簿です。</p>
4 事務局職員紹介	
地域福祉課長	<p>続いて、資料2ページ目、下段の表をご覧ください。</p> <p>事務局職員の名簿です。</p>
5 函館市社会福祉審議会の概要について	
地域福祉課長	<p>議事に入る前に、本審議会の概要について、説明する。</p> <p>資料の3ページ目、「函館市社会福祉審議会の概要について」を ご覧ください。</p> <p>(資料3ページに基づき説明)</p>

6 協議事項	
地域福祉課長	<p>函館市社会福祉審議会条例第6条第3項の規定により、会議の議長は、審議会の委員長が務めることとなっている。</p> <p>本日は、委員改選後、最初の会議ということで、まだ、委員長の選出がされていない。</p> <p>従って、委員長が選出されるまでの間、事務局で議事を進めるので、了承いただきたい。</p>
委員	(異議なし)
地域福祉課長	<p>それでは、会議の成立について確認する。</p> <p>函館市社会福祉審議会条例第6条第4項の規定により、本審議会の会議の成立は、委員の半数以上の出席が必要である。</p> <p>本審議会の委員総数は、28名で、そのうち、本日、出席の委員は20名で、過半数に達し、会議は成立している。</p> <p>なお、これから議事に入るが、審議会の会議は、非公開とすべき事情がない限り、原則として公開することとなっており、本日の議題に非公開とすべき理由はないので、公開したいが、いかがか。</p>
委員	(異議なし)
地域福祉課長	異議なしとの声があったので、本日の会議は公開することと決定する。
6 協議事項(1) 委員長の選出について	
地域福祉課長	<p>「協議事項(1) 委員長の選出について」</p> <p>委員長は函館市社会福祉審議会運営要綱第6条の規定で、委員の互選で選任することとされているが、いかがか。</p>
委員	(事務局一任の声)
地域福祉課長	事務局一任の声があったので、事務局から提案してもよいか。
委員	(異議なし)

地域福祉課長	<p>それでは、事務局からの提案として、前回は委員長を務め、函館市身体障害者福祉団体連合会会長として、身体障害者の生活の安定と福祉の増進に深く関わっており、豊富な知識と経験をお持ちの佐藤秀臣委員にお願いしたいと考えているが、いかがか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
地域福祉課長	<p>異議がないようなので、本審議会の委員長は佐藤秀臣委員に決定する。</p> <p>それでは、佐藤秀臣委員には、議長席にお移りいただきたい。</p> <p style="text-align: center;">－ (佐藤秀臣委員，議長席に移動) －</p> <p>それでは、委員長にご挨拶をいただき、この後の会議の進行については、議長として、審議会を進めていただきたい。</p>
委員長	<p style="text-align: center;">－ (委員長挨拶) －</p>
<p>6 協議事項 (2) 委員長職務代理者の指名について</p>	
委員長	<p>それでは、「協議事項 (2) 職務代理者の指名について」事務局から説明を願う。</p>
地域福祉課長	<p>函館市社会福祉審議会条例第5条の規定では、「委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する」となっており、委員長から職務代理者の指名を願いたい。</p>
委員長	<p>委員長の職務ということで、職務代理者には、函館市民生児童委員連合会から推薦の委員、函館市医師会から推薦の委員、函館短期大学から推薦の委員の3名にお願いしたい。</p>
各委員	<p>了承する</p>
委員長	<p>それでは、職務代理者を願いたい。</p>

6 協議事項（3） 専門分科会および審査部会の委員の指名について	
委員長	次に「協議事項（3） 専門分科会および審査部会の委員の指名について」事務局から説明願う。
地域福祉課長	資料の3ページに基づき説明する。 先程、説明したが、本審議会は、3つの専門分科会と1つの審査部会の構成となっており、各委員の所属については条例の規定により、委員長が指名することとなっている。 なお、身体障害者福祉専門分科会審査部会の臨時委員については、調査を継続審議していることから、引き続き、審査部に所属することとなる。
委員長	事務局から説明があったとおり、専門分科会および審査部会について、所属委員を指名したい。名簿を配るので、しばらくお待ちいただきたい。 (委員へ名簿配付)
委員長	ただいまの名簿のとおり、民生委員審査専門分科会は5名の方々に、身体障害者福祉専門分科会は、私を含めて13名の方々に、審査部会は臨時委員7名と身体障害者福祉専門分科会委員の3名を加えた10名の方々に、児童福祉専門分科会は10名の方々に、お願いしたい。 この後、それぞれの分科会が行われるので、皆さま方はそちらのほうで議論していただきたい。 以上、所属の皆様におかれては、よろしく願いしたい。

6 協議事項（４） 福祉拠点の整備について	
委員長	次に「協議事項（４） 福祉拠点の整備について」大泉部長から説明願う。
保健福祉部長	<p>本日は、コロナウイルスの対応による時間短縮のために、本来であれば委員の皆様を一人ひとり紹介するところだが、割愛をして誠に失礼した。改めてご理解をいただきたい。</p> <p>それでは、資料12ページをお開きください。</p> <p>(資料説明)</p>
保健福祉部長	<p>以上、雑ばくではありますが、福祉拠点の整備について、それから、引きこもりの実態調査について、様々な分野でご活躍されている委員の皆様から、忌憚のないご意見等をいただきたい。よろしくお願ひします。</p>
委員長	<p>今日は、工藤市長の、函館市における福祉の様々な政策について、いろんなことを発想されていたが、ひとつは福祉拠点の整備ということで、今回、具体的なものが出てきた。</p> <p>引きこもりについては、新聞にも出ていた。このことについて、多くの人たちがいろんな思いを持ったことなのかなと感じていた。</p> <p>どちらからでもかまわないが、今日は、7時半くらいまで大丈夫とのことなので、この辺についての質問や意見を出す場があまり無いと思うので、皆さま方からご質問やご意見があったら出していただきたい。</p>
委員	<p>新たに委員になりました。どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>保健福祉部長からいろいろな説明をいただき、非常にもうすでに、練られたものだということを改めて教えていただいた。</p> <p>ワンストップ相談窓口ということでは、バラバラのいろんな議論があったかと思うが、なかなか実現ができなかった。</p> <p>どうしてかという、ワンストップで、1か所で全ての相談を受け付けるということはとても理想的なことではあるが、なかなか現実的ではない。</p> <p>相談というのは非常に多様化していて専門性も高いから、1か所だけで全てが決められるというものではない。</p> <p>そういったこと、それから、部長が言っていたが、ニーズの複合化。</p> <p>そういったこともあるので、なかなかその場だけで、一つの専門だけでは解決できないというような複雑な問題がある。</p> <p>でも、やっぱりワンストップの相談窓口が住民にとっては理想だと思う。</p> <p>ただ、なかなかそれが実現できない現実。じゃあ、この理想と現実をどのようにオーバーラップさせていったら良い着地点になるのか、という時には、資料15ページの絵に有るような連携という言葉がより大事なポイントなんだろうと思う。</p> <p>ワンストップの窓口があって、そこに専門的な機関がたくさんある。そこといかに連携していくか、そのパイプを太くしていくかということで、その窓口の価値というか、住民からの効果性が高まる。</p>

<p>委員</p>	<p>ですから、これからいろいろ具体的なことも考えていくと思うが、連携のパイプをいかに太くするかということが、福祉拠点の整備の一つの鍵になるのかなと思う。</p> <p>それから、もう1点だけ。</p> <p>これは直接の話ではないが、先日、子ども食堂を運営している人と話をする機会があって、その時に、今はコロナ禍の影響でなかなか食堂を開けない。ですから、テイクアウトをやっているということだった。</p> <p>テイクアウトをすると、それまで子ども食堂に来なかったような人たち、例えば、子ども食堂というのは小学校3年生くらいまでの小さな子ども、小学校低学年の人が主だったりするが、もっと上の学年の人たち、中学生とか高校生とか、地域の高齢者とかが自分は子どもじゃないけどいいのかなと言いながら、オズオズともらいに来るという現象がある。</p> <p>今まで顔も見なかった人と子ども食堂の職員・スタッフさんが顔を合わせるということをやっていた。</p> <p>その時に思ったのが、子ども食堂ってひとつのキーワードで、子どもだけをターゲットにして作っている。</p> <p>でも、その奥にはたくさんのニーズがあって、幅広い人たちが繋がりを求めているんだというのが垣間見えるということ。</p> <p>ですから、こういう福祉拠点というようなひとつの拠点の考え方をを持った時に、非常に、バックグラウンドにたくさんの人が居るんだということを常に意識しながら、いかにそういう人たちを取り込んでいけるのか。</p> <p>子ども食堂のような、言ってみればインフォーマルな支援のあり方というのも非常に大事なものだと思っている。</p> <p>ちょっと長くなって申し訳ありませんが、意見を述べさせていただきました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>このことについて、部長からコメントをいただけるか。</p>
<p>保健福祉部長</p>	<p>連携がポイントだと言うのは全くその通りだと思う。</p> <p>やり始めてみると難しい点も多々出てくると思うが、それは走りながらやっていくことかと思う。</p> <p>この制度が始まると、成果を求めるあまり、早く終結させようとし、終結した数を成果としてしまうというようなことが起きるかもしれない。</p> <p>そうなるのはいけない。</p> <p>連携をして伴走することで関わり続けるということが、むしろ大事なことである。</p> <p>子ども食堂のようなインフォーマル支援、これが充実してきたというのも、社会の変革の大きなひとつだろうと思っている。</p> <p>これは、血縁地縁社縁が衰えていったこととまた反対に、こうしたインフォーマルな力が増えてきた。</p> <p>こうした社会資源を活用することが大事であるし、そうしたネットワークの核として福祉拠点が機能できれば良いと思っているところだ。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>委員、よろしいか。</p>

委員長	<p>トップバッターで話をさせていただきありがとうございました。 なかなか口火をきる方はそういなくて、この後、話がしやすくなったと思うので、何人かの方たちにご質問やご意見を出していただきたい。</p>
委員	<p>よろしく申し上げます。 今回、引きこもりの実態調査をしていて、すごく良いなど、重要な調査をしていて問題が明確になったと思うが、実態の状況と併せてすでに引きこもりの支援とか或いは先ほど話をしていた子ども食堂の活動とか、函館市内の中でも困窮者支援を含めて、いろいろな団体が取り組んでいるが、そうした取り組みの状況について、函館市としてどれくらい把握しているのかということと、いろんな活動がこの拠点づくりとどうリンクさせていくのかということと、少しイメージがあったら共有していただきたい。 もうひとつは、拠点について、この社会福祉審議会の中でどのような議論がなされて、どのようなところで貢献をしていったらいいのかということも含めてご教示いただきたい。</p>
保健福祉部長	<p>まずは後のほうの社会福祉審議会におけるこの問題の取り扱いということだが、この社会福祉審議会においては、例えば、正式に諮問をしたり、或いは上部の行政機関に報告をしているという機能を果たす会議であるが、今日のこの福祉拠点の説明や引きこもりの実態については、今日ご説明をしてご意見をいただくというもので、今後、引き続き、正式な手続きを踏んで諮問答申していくのではない。 折角こうした様々な分野で活躍されている皆さんが集まっているので、ちょうど今、私どもが取り組んでいる福祉拠点について、忌憚なくご意見をいただき、それを参考にしたいと思い、本日説明した。 続いて、もう既に子ども食堂を始め、多様な団体が困窮者支援に取り組んでいる、そのことについてですが、私ども保健福祉部だけではなく、子ども未来部や市民部、その他教育委員会等々、様々な部局でそれぞれの支援団体とかなり密に連携をしている。 これを定量的に把握しているわけではないが、いずれにしてもこの福祉拠点を検討するにあたって、様々な部局と協議、或いは関係団体と打合せをするなかで、そうした、インフォーマル支援がいかに重要か、改めて認識を深めたところである。 また、来年1年間準備期間があるが、準備期間はもとより令和4年で拠点が動き出してからも、そうした多様な団体の取り組みについてもしっかり把握し、絶対に欠かせない団体だと思っているので、密に連携をしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>拠点づくりについて、審議会は特に取り扱わないということか。</p>
保健福祉部長	<p>はい、そうです。</p>
委員	<p>はい、わかりました。</p>

<p>委員長</p>	<p>他にご質問やご意見はないか。</p> <p>委員のほうからワンストップの相談をとということがあったが、実は相談事業というのはたくさんあって、いろんなところで専門の相談をしている方たちがたくさんいるが、なかなかそれが専門外のところとの連携というのが難しいのかなという思いがあって、そういったところについては、それぞれの専門職の方たちに改めて問合せをして進めるといふことがある。</p> <p>今回、この施設については、ワンストップについての期待が高いのではないかと思っている。</p> <p>特に、今までは介護保険関係の高齢者支援をずっとやってきたわけだから、新たな事業としては障がい問題と児童問題ということ。</p> <p>岡崎委員は児童の関係でご発言されたと思うが、障がい問題については、相談支援事業所もあって、そこでいろんな相談を受けているが、その相談支援事業所と今回新たにできる福祉拠点とどういうふうに繋がりを持っていくのかということ、なかなかイメージとしてわからないかもしれないが、その辺、委員から、思いとか、想像できるものとか話をしていただけないか。</p>
<p>委員</p>	<p>函館一条で相談のほうの仕事をしている。</p> <p>今、いろいろ話を聞いて思ったのが、実際に私は、障がいの相談をしているが、それこそ、8050問題でいえば50歳、どちらかといえば50代60代の障がいの有る利用者に関わっていると、在宅がほとんどなので、その中でご両親が80歳を過ぎているとか90歳近くになっているとかいうなかで、今、本当に問題になっているのが認知症を抱えている方々がいて、もうそうなった時に本当にどうしていいかわからない状況があったため、飛び込みで包括支援センターにお世話になった。</p> <p>それがきっかけになって、今は包括さんと一緒に勉強会をやっている。</p> <p>函館市がイメージしている拠点の一步前の段階かもしれないけど、今、その勉強会のなかで参加しているのが、包括の方が中心になっているが、その他に当然行政の方とか医療とか私たちのような相談、障がいのほうの福祉関係とかヘルパーとかそこらへんが皆でひとつの事例について話し合うような場面ができてきて、先生方からも出ていましたが、連携という部分ではこの令和4年度に向けての前段階として、少しずつ動き出しているのかなと感じている。</p> <p>高齢とか障がいとか縦割りではなく、全体が福祉として高まっていくのが大事なことなんだと、話を聞きながら、雑ばくな意見だが、そう思いながら聞かせていただいた。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>相談支援事業所として包括と連携を取ってやっているという話だったが、先駆けてやっているということで、そうせざるを得ないということ。</p>
<p>委員</p>	<p>包括とかケアマネさんのほうからも高齢者の家に行ったら、引きこもりの方が居て、この息子さんはどうしたらいいのかと。</p> <p>私は高齢者の介護のことで入ったけどどうしたらいいんだろうというやり取りをしていて、そこから繋がりで広がっていくというのが理想的な形としてある。ワンストップの難しさはあるが、協力して動いている。</p>

委員長	ありがとうございます。
保健福祉部長	<p>4つの分野のなかでも、障がい分野との橋渡しというのが、非常に独特の形になるのかなと思っている。</p> <p>いずれにしても、今、話にあったように、8050となった時に、引きこもりのほうからアプローチすると親が認知症になっている。或いは、逆に包括のほうで80さんの所に行くと50さんが引きこもっているからどうしていいかわからない。</p> <p>それぞれに、国から入ってくる財源が違うので、幅広くその問題を扱っていくことはなかなか難しいケースもある。</p> <p>こうしたケースをどのようにうまく繋いでいくかというのは、初めはいろいろ悩みがあると思うが、だんだんこなれていくのかなと思っている。</p> <p>まず、何よりも、だんだんこういうことが認知されていけば、自分ひとりが悩みを抱えているのではないと、皆さん気づかれると思う。</p> <p>今は本当に忙しいのもあるだろうし、どうしていいのかわからない、孤独なトンネルがずっと続くような感じで、相談する、手を挙げる、声を上げることもできずにいる方が多くいると思う。その方々が、一人じゃないと思えるように手を差しのべる、アウトリーチする、或いは相談できる場所というのが、これまでなかった。</p> <p>いったいどうすればいいのかを見立ててあげるような、そういう役割をする方がなかなかいなかったと思う。</p> <p>そういう役割ができるように、福祉拠点をうまく構築していきたいと思っています。ご意見ありがとうございます。</p>
委員長	<p>チャート図を見ていくと、ずっと下の方に、連携先の中に、民生児童委員というのが出てくる。</p> <p>船橋委員、そのへんの連携をとということで、今の佐藤(浩)委員の話にもあったようにいろいろとやっていると思うが、何かご意見をいただければありがたい。</p>
委員	<p>引きこもりに関しては、非常にデリケートな問題で、20年、多い方では30年引きこもっている方が居て、やはりご両親が高齢で一生懸命生きてきて、人に迷惑をかけないように生きてきたご両親が子どもが引きこもりになった時に、手を挙げて困っているんですけど、ということを訪問しても言わない。</p> <p>それで、今もう90歳、8050じゃなく90歳とかお母さんが、そして息子さんが60代になってきている。</p> <p>貯金も底をついて、どうしたらいいのかなっていう声も上げられずにいるので、民生委員としては気軽に相談、例えば、名刺などを作って何か困ったことがあったらここに相談してねって言えるような相談窓口を構築していただければすごく助かるなと感じた。</p>
委員長	ありがとうございました。
保健福祉部長	<p>そのとおりだと思う。</p> <p>今後とも、どうぞご協力をお願いします。</p>

<p>委員</p>	<p>この資料のなかに、連携先として民生児童委員、在宅福祉委員とあるが、日頃から包括支援センターも併せて、地域活動でよく連携をさせていただいて、地域の相談解決をさせていただいている。 ありがとうございます。</p> <p>それで、高齢者を、町会活動で地域を見ている者としては、高齢者については比較的、民生委員や在宅福祉委員会というのは町会にあるので、システムとしてあるかなと思う。</p> <p>ただ、昨今の報道で見る、例えば、コロナで生活困窮になっている例えば、学生、大学生の問題が函館でもある。</p> <p>それから、外国から来ている方たちも、既存のシステムではなかなか助けられなくて、食べるのにも相当困っている。</p> <p>そういう既存のシステム以外のもので、困窮している方のことが、昨今、報道でも出ている。</p> <p>それで、この審議会でとなるのかわからないが、今回の8050問題での調査は、たいへん立派な調査で実態がよくわかって、問題が明確になるのかなと思う。</p> <p>先ほど言ったが、新たな困窮者、学生だとか外国人の労働者、そういう方については、多分、同じように実態調査をしないとなかなか見えないところがあると思うが、その辺について、そういう新しい課題についての今後の調査等の計画があるかどうか、あるようなら説明願えればありがたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員、ありがとうございました。</p> <p>実は困窮している人たちはたくさんいて、そういう方とか引きこもりのことについて、深くいろんなことを掘り下げていくと、まだまだいろいろあるのかなという思いもある。</p> <p>どうなのでしょうね、部長、その辺のところは。</p> <p>今後のことについてということになってくるのでしょうか、調査も結構な費用をかけているだろうから、そういった意味では簡単にはいかないでしょうけど、ひとつの目処を付けたけれども、今後これを基にしてどういう風にやっていくのか、また、新たな調査をどういう風にするのか、計画などがあったらお知らせいただきたい。</p>
<p>保健福祉部長</p>	<p>具体的な計画というのはおそらくない。</p> <p>学生については、コロナにより一時的に困窮しているということがあると思う。これについても、全部確認したわけではないが、多分、調査はないのではないかなと思う。</p> <p>あと、外国人だが、特に介護の分野での外国人労働者をこれからどのように対応していくかということが、本来であれば今年からかなり本格的に取り組むはずだったが、これもコロナウイルスの関係で進んでいない。</p> <p>ただ、来年以降、これをどのようにやっていくのかというなかで、形がどういうふうになるのかわからないが、外国人の方が働きやすい環境、そうしたことを作るために、それがアンケートになるかヒアリングになるかわからないが、様々な形で情報を共有していくことになろうかと思う。</p>

<p>保健福祉部長</p> <p>委員長</p> <p>保健福祉部長</p>	<p>こうした新しい課題は、本当に重要なものと認識しているが、今回、令和4年の4月から動き出す福祉拠点でこれらを扱い始めると、今抱えている問題だけでも非常に幅が広くて、正直言うとキャパシティがギリギリじゃないかと思っているので、この福祉拠点で学生や外国人の対応は、なかなか最初は難しいものと思っている。</p> <p>これについては、様々な部局と連携をしながら取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>福祉拠点については、早くからいろいろ期待していたところもあって、確かに全ての人というわけにはなかなかいかないと思うが、それでも、多くの人たちが手を差し伸べてくれるのを待っているのかなと思う。</p> <p>どこに相談していったらいいのかわからないということもたくさんあると思う。</p> <p>そういった意味では、これが機能して、これから先、函館市内で良い事業が展開できればと思っている。</p> <p>引きこもりの問題についても、調査をただけということだけでなく、それをどういう風に支援に結びつけていくのか。</p> <p>そういった意味では、民生児童委員とそれから在宅福祉委員のそれぞれのほうからご発言をいただき、たくさんの方たちのご苦勞されることだと思うが、これからもお世話になるが、よろしくお願ひしたい。</p> <p>貴重なご意見をありがとうございました。 参考にさせていただきたいと思う。</p>
<p>7 その他</p>	
<p>委員長</p> <p>委員</p> <p>委員長</p> <p>地域福祉課長</p> <p>委員長</p>	<p>議事については以上だが、他に各委員で何かないか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>他に事務局、何かないか。</p> <p>事務局のほうからは特にない。</p> <p>それでは、以上で議事を終了させていただく。 皆様のご協力により滞りなく、議事を進めることができた。 ご協力感謝する。</p>

8 閉会	
地域福祉課長	<p>以上をもって、「令和2年度函館市社会福祉審議会」のうち、「全体会議」を閉会させていただく。</p> <p>この後、各専門分科会の会議を開催する。</p> <p>なお、身体障害者福祉専門分科会は、引き続き、この場所で専門分科会を開催する。</p> <p>民生委員審査専門分科会は8階第4会議室で、</p> <p>児童福祉専門分科会は8階第2会議室で、それぞれ行うので、引き続き、所属する分科会への出席をお願いします。</p> <p>各会場には、係員が順次案内する。</p>